



みなさんは「公民的資質」をどうとらえますか

矢作北中学校 校長 荒河 昌吾

本校では、2学期に生徒会が中心となり校則の見直しをしました。来年度からの新しい制服の導入に伴い、生徒会役員が「靴の自由化」（現在は白色の運動靴のみ可）を全校で考えたいと私に申し出てきました。私は「とても良い提案だね。変わるか変わらないかは別として、これを機会に校則についてしっかり全校で考えてみよう」と答え、早速、生徒会顧問の先生に校則の改正にむけて、生徒たちを支援するよう助言をしました。

生徒たちはまず、各クラスで学級会を開き、議論をしました。そしてその後、各クラスの意見を持ち寄り、生徒総会を開催しました。多くの生徒から様々な意見が出て総会は白熱しましたが、あきらかな結論はでませんでした。そこで、後日、生徒会は生徒代表議会を開き、どのような校則にするかを再度話し合い、意見をまとめました。その意見を職員会議の議題とし、校則の改正を決定しました。

全校集会で私は、生徒たちに「民主的な手続きを経て、全校生徒で決定したこと」また「校則に関して多面的に考え、一人ひとりが価値判断、意思決定ができたこと」を大いに称賛しました。

「小学校学習指導要領解説 社会編」では「公民的資質」として「平和で民主的な国家及び社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力」と説明されています。

私は、社会生活における物事の決定のしかたや決まりについて考えさせることは、大変意義のあることであり、そして、その際に「対立と合意」「効率と公正」などについて視点をあて、生徒が価値判断や意思決定をする力をつけることが「公民的資質」を育むことになるのではないかと考えています。

みなさんは、日々の授業で社会科の究極の目標である「公民的資質」の育成をどのように意識していますか。子どもたちに社会科の授業で身につけさせたいことは、社会認識であることは言うまでもありません。また、子どもたちが確かな社会認識の獲得なくして、社会科の授業は成り立ちません。しかし、その社会認識は、実生活の中で活用できてこそ意味を持つものではないでしょうか。

ぜひ、子どもたちが身に着けた確かな社会認識をもとに、直面する課題を解決することができる価値判断力や意思決定力を育てる社会科の授業の実践をしてみたいはいかがでしょうか。

「授業力・教師力アップセミナー基礎編」報告

竜海中 赤堀 大知

7月21日（金）に岡崎石工団地にて授業力・教師力アップセミナーを開催し、多くの先生方に参加していただきました。

石工団地を見学しながら、石工団地協同組合の皆様、石製品の歴史や発展について分かりやすく説明していただきました。また、参加者の先生方に実際に切削体験していただき、貴重な機会となりました。研修では、指導員の安井先生・平岩先生による授業づくりの講義がありました。石工団地の見学を生かした単元構想や社会科の見方・考え方に着目した学習課題の設定の仕方などのアドバイスをいただきました。これからの授業づくりの参考になりました。



社会科・新任の先生紹介

今年度の社会科部の新任は18名です！

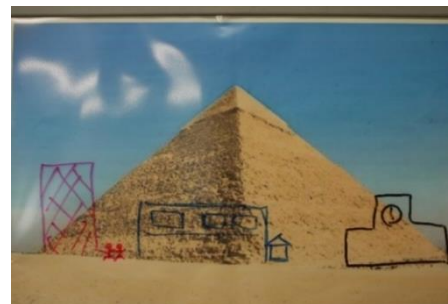
美合小	望田 大輔	岡崎小	鈴木浩太郎	三島小	兼原 瑞来	井田小	石川 奈波	福岡小	小林 愛未
本宿小	富田 和樹	生平小	仁井本昇也	細川小	高木 優里	岩津小	佐野 友祐	大門小	宮崎 大輔
矢北小	雨宮 千尋	六北小	鬼頭 愛実	上地小	山内 瞬	北野小	羽根田あづみ	南 中	辻 和佳
葵 中	西田 雄哉	竜南中	川瀬 青空	六北中	齊藤凜雲人				(敬称略)

必見！授業技！

竜海中 川口 麻衣

～子供から問いを生み出す導入を目指して～

竜海中学校では、「子供から『？』を引き出す『導入』の工夫」に取り組んでいます。魅力あふれる導入を実現するには、子供が興味をもっているものや実社会・実生活にかかわるものを教材化・題材化することが重要であると考えます。そこで、1年生歴史分野「古代文明のおこりと発展」では、導入時に生徒がテレビや本などでよく見るピラミッドを扱い、※まなボードを活用してチームごとに当時の人々の生活について考える場面を設定しました。まなボードにピラミッドの写真資料をはさみ、透明シートの上から自分たちが過ごす校舎を予想してかき込み、その大きさを比較しました。「校舎の3倍くらいかな？」「違うよ、もっと大きいから私にもかかせて」など、子供同士で自分の予想を楽しそうに伝え合いながら、何度も校舎の大きさをかき直す姿が見られました。意見交流が活発に行われていたため、実際のピラミッドの大きさを知ったときにはとても驚き、「どうやってつくったのだろう？」「何のためにこんなに大きくしたの？」と、たくさんの疑問を引き出すことができました。



生徒たちが描いた校舎の大きさ

学級の中には、チーム学習を取り入れてもなかなか自分の考えを伝えることができない子供がいます。しかし、ピラミッドと校舎の大きさを比較する今回の授業では、まなボードに校舎の絵をかき込み、仲間と楽しそうにかかわる様子が見られました。改めて、子供が興味をもちやすい教材を活用し、子供の問いを生み出す導入の大切さを感じました。

※まなボード…ホワイトボードとは異なり、写真や資料を透明シートの下にはさみ、透明シートに文字や絵をかき込みながら使用することができるもの

発見！一押し地域教材！

大樹寺小 星野 智史

スーパーマーケットと個人商店（魚屋）を比較する

★単元

○小学3年生 単元「店で働く人」

★この教材を使い、工夫した点

① ICT機器を活用する

従業員さんのご厚意で商品の支度や接客、子供たちの質問に対するインタビューの様子を撮影してくれました。(資料1) その動画をICTルームのPCとヘッドフォンを使って視聴しました。個人で何度も見返すことで(資料2)、「世間話からお客さんとの関係を築くこと」「お客さんに合わせて刺身の盛り合わせを変えること」など、個人商店ならではの販売の工夫を読み取ることができました。



資料1 接客の様子



資料2 視聴の様子

② スーパーマーケットと魚屋の良さを議論する

日頃から利用するならばスーパーマーケットと魚屋のどちらか、議論しました。スーパーマーケットを選択した子供は、「商品の種類」「消費者に合わせた施設」などの観点から意見を述べていました。一方で魚屋を選んだ子供は、「お客さんとの関係づくり」「お客さんに合わせた商品の提供」という個人商店ならではの観点から理由を述べていました。議論を重ねる中で、どちらの良さにも気づき、場合に応じてスーパーマーケットと個人商店を使い分けるといふ選択肢を生むことができました。また、自分たちが住む学区に存在する魚屋の努力を知ったことで、普段あまり行かない子も「魚屋さんすごい」「行ってみたい」というような、郷土に対する誇りや郷土愛を育むことができました。